

## 兵庫・見藏岡遺跡

みくらおか

測る。  
調査は、中学校建設に伴う全面発掘調査で、範囲は一万m<sup>2</sup>に及ぶ。  
三月末で約四八〇〇m<sup>2</sup>の調査を終了した。



- 1 所在地 兵庫県城崎郡竹野町松本字入谷ほか
- 2 調査期間 一九九三年度調査 一九九三年(平5)五月~一九九四年三月
- 3 発掘機関 竹野町教育委員会
- 4 調査担当者 松井敬代
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 繩文時代中期末~一四世紀頃
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

見藏岡遺跡は、兵庫県の最北端、猫崎半島の延びる竹野海岸から

南方約1kmに位置している。

このあたりは香住町とともに

遺物の出土量はあまり多くなく、整理用コントナに約五〇箱ほどである。木製品の遺存が良好で、木簡のほか、建築部材・下駄・横櫛・円板状木製品・漆椀・漆塗り容器などがある。土器は土師器が大半を占め、なかに東播系須恵器・貿易陶磁器が散見される。土師器杯・皿、瓦質甕・鉢・火舎、黒色土器A類、須恵器片口鉢、中国製青磁碗・皿、白磁片などがある。その他の遺物には、土壙墓からまとまつて出土した銅錢・刀子・鉄釘・土鍤などがある。

当遺跡の存続時期は、一二世紀末から一四世紀頃と考えられる。

中世初頭の竹野郷に関する文献史料はほとんど残されていないが、「但馬国太田文」によると、公領(国衙領)であり、幕府から地頭が配され、当地の御家人が公文をしていたことが記述されている。し

かし、文永八年（一一七一）に比叡山延暦寺講堂の修造料所とされている（『天台座主記』）。

木簡は、五間×九間の東廂付き建物の柱穴から出土した。この建物の柱穴の径は七〇cm～一〇〇cm、柱の径は二五cm前後である。南北に長い桁行二二・二一m（七四尺）、梁行二一・四m（四一尺）の大型の建物で、面積は二七五m<sup>2</sup>を測る。木簡は、柱穴の掘形の底に近い部分でみつかった。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) 「前分一斗四升三合

・「 勘  〔雜  
カ〕

(99)×19×3.5 039

表裏は判然としないが、とりあえず文字の残りのよい面を表としておく。「前分」が何を意味するのかわからぬが、そのあとに続く数字から、米などの物品の量を示す木簡であろうと考えられる。

裏面は判読可能な文字から、「勘所」「勘納」「勘取」などが考えられ、物品の受け取りを示す文章になろう。共伴の遺物から、鎌倉時代前半にかかる木簡であると思われる。

当遺跡の性格を考えると、大型の建物群と井戸、屋敷内埋葬が認められること、木簡の出土、中国製青磁・白磁の優品が比較的目につくことなどからみて、在地有力者の屋敷跡であり、少なくとも数代にわたってこの地に居住したのは間違ひなかろう。調査が継続中

ということもあり、遺跡の性格など、詳細な検討は今後の課題である。  
(松井敬代)

